

総
裁
様

ご結婚特集

大谷光淳新門さま・古川流豆美さま 御婚儀

- 2 **結** 婚式
3 阿弥陀さまの前で
- 4 **総** 裁さまインタビュー
5 参列者よろこびの声
- 6 **書** 院
国宝・鴻之間紹介
- 7 **中** 央委員長・お祝いの言葉
ご婚儀に参列して
- 8 **取** 材にあたって
編集後記



仏教青年連盟機関紙

まこと
号外

大谷光淳新門さま・古川流豆美さま 御婚儀

2006(平成18)年3月25日 於：本願寺総御堂

新門さまと古川流豆美さまがご結婚されました。「まこと」135号では、特集として仏前結婚式をとりあげ、新門さまと流豆美さまのご結婚の日に発行しました。

今回、さらに「まこと」取材班は、お二人の結婚式の取材に行ってきました。

「新門さまというと、本願寺の後継者だし、私たちは式に参加するなんてできないでしょ？」

と、お思いの方もいらしたかもしれませんが、結婚式は、「一般の方にぜひご参列いただき、なるべく多くの方に見ていただきたい」というお二人のご意向を反映して、多くの参列者が見守る中、厳かに行われました。

参列された方からは、「一緒に、同じ空間でご結婚をお祝いすることができてうれしかったです」という声を聞くこともできました。

「流豆美さまも法衣で」

新門さまと流豆美さまはお二人とも僧侶です。お二人とも法衣を着てのご婚儀でした。「流豆美さまかっこいい～」という女の子の声が聞こえてきました。



新門さま お言葉

人生の節目を仏さまの前で迎えてもらいたいとの新門さまのおこころが、ご婚儀に参列された方々に配布された式次第にも表れていました。以下、全文を掲載。

結婚式は喜びを分かち合い、苦しみとともにすることのできる人生の伴侶に巡り合い、手を取り合って新しい家庭をつくる第一歩です。

お釈迦様は、「人生は苦なり」とお説きになりました。しかし、それは結果として「人生は苦なり」とおっしゃったのではなく、「人生は苦なり」であるからこそ乗り越える道をお示しになりました。十方衆生を救わずにはおられないと阿弥陀如来様がご本願をお立てになったのです。

阿弥陀如来様のご尊前で、念仏に香る家庭を築こうと決意することは意義深い事です。親鸞聖人と恵信尼様が互いに敬慕しいい、お念仏を喜ばれた生活を範としたいものです。

結婚という人生の節目に、一人で生きているのではなく生かされ、支えられて生きていることに思いを馳せ、結婚の喜びを多くの人々とともに生きるエネルギーへ換えたいものです。

本願寺聞法会館、大谷本廟をはじめとして各地のお寺で仏前結婚式を挙げる事が出来ます。お気軽にお問い合わせてください。

新門 大谷 光淳

式次第



1. 行事鐘 2. 御二方御入場・着席



9. 御二方誓いの詞



3. 司婚者御登礼盤 4. 三奉請
5. 表白 6. 重誓偈(律曲)
7. 回向句 8. 司婚者御降礼盤



10. 御二方御焼香

「インターネットで生中継」
 インターネットで式の模様が全世界へ生中継されました。本願寺まで来られなかった方も、ウェブを通じて一緒にお祝いすることができました。



13. 御二方御移動 14. 御二方仮御影堂御焼香
15. 祝辞 16. 御二方御退出



11. 御法話 12. 司婚者御退出

総裁さまインタビュー

御婚儀を終えられた総裁(新門)さまに、書面にてインタビューにお答えいただきました

Q1 今のご心境をお聞かせください。

多くの方に参列いただいて、本願寺の総御堂で結婚式を出来ましたことを嬉しく思っています。結婚式・披露宴にあたり、宗務員の方をはじめとする大勢の方にお手伝いいただきました。また両親をはじめとする多くの方に育てられて、今まで生きてきました。そしてこれからも多くの方との関わりの中で人生を送っていくことになります。両親をはじめとして名前のわからない多くの関わりがあった方、そしてそのようなことに気付かせていただいた阿弥陀如来のはたらきに、感謝の思いをもっています。

Q2 これからどのようなご家庭を築いていかれたいとお考えですか。

一緒に阿弥陀如来のみ教えを聞き、それについて考え、話し合える関係でありたいと思います。そして一緒にそのみ教えを伝えていきたいです。そのような二人の家庭を、二人で考えていきたいです。

Q3 私たち仏教青年連盟は、仏前結婚式を奨励しております。総裁様は御婚儀の契に仏前結婚式の意義をお示しくさいましたが、数多いブライダルスタイルの中で、これから結婚をひかえるカップルに向けて、仏前結婚式へのお考えをお聞かせください。

仏前で結婚式を挙げるということは、阿弥陀如来のみ教えによって生きていくということに他なりません。阿弥陀如来のみ教えによって生きていくとは、人間本来の姿に気付かされると言うことです。自己中心的な考え方が出来ない私であるという現実を受け止め、無批判にそれを肯定することなく、真摯に生きていくことです。結婚をし、二人でそのように生きていきたいと願うのが仏前結婚式ではないでしょうか。これからの人生を考える切っ掛けとして、仏前結婚式を考えていただきたいと思います。

Q4 総裁様ご夫妻は、宗門の未来を切り拓いて私たちをお導きくださることと心強く感じております。このたびの御婚儀でのお二方の凛としたお姿を拝見して、心から感激の思いを新たにいたしました。最後に、そんな私たち仏教青年連盟へおひとこと、お言葉をお聞かせください。

現在日本は少子高齢化社会となってきています。現状では今後更に加速度的に進むと考えられます。それによって地域による人口バランスの違いや青少年を取り巻く環境の違い、また地域での経済格差も出ています。仏青活動にもそれぞれの場所にあったきめ細かい活動形態が求められています。今後は更に組や教区単位での活動に取り組んでいかなければなりません。

また仏青活動は寺族の方とそうではない方が一緒に活動していく場です。特に寺族の方が寺族という殻を破って、大勢の方が集まりやすい場所にしていかなければなりません。

皆さんと一緒に、浄土真宗のみ教えを聞き、それに生きていく人達の集まりである、仏青の活動に取り組んでいきたいと思います。

ほんとうにおめでとうございます。

新門丸也、森田謙丸也の結婚に
込められたおしりじり
共慶にもおめでとう。

お二人の結婚に
おめでとう。
新門丸也、森田謙丸也の結婚に
おめでとう。

お二人の結婚に
おめでとう。
お二人の結婚に
おめでとう。

お二人の結婚に
おめでとう。
お二人の結婚に
おめでとう。

参列した方々のお祝いの声

質素な結婚式が、
お二人の人格を
表しているように思いました。

お二人の結婚に
おめでとう。
お二人の結婚に
おめでとう。

お二人の結婚に
おめでとう。
お二人の結婚に
おめでとう。

結婚式は共有できる空間で行われて
まさに御同朋が
実践された式でしたね。

お二人の結婚に
おめでとう。
お二人の結婚に
おめでとう。



書院・鴻之間

披露宴が行われたのは、国宝でもある鴻之間。美しい障壁画に囲まれた大広間で、そこからは能舞台を臨むことができます。普段は非公開の鴻之間をご堪能下さい。

対面所：鴻之間（国宝）

203畳敷きの大広間。上下段の境の欄間に雲中飛鴻の彫刻があるので「鴻之間」とも呼ばれる。上段の床には張良が四賢人を率いて恵帝に謁する図が逆遠近法で描かれている。この障壁画は狩野派の渡辺了慶筆。華麗で重厚な趣が深い間。

下段左右の襖絵と上段床の絵の絵の具にはすべて鉱物質（金、銀、白は水晶、赤は珊瑚、緑は銅のサビ）が使われているため、約380年の年月を経た現在でも美しい色を残している。



南能舞台

鴻之間の前には「南能舞台」がある。書院の南側にある屋外の能舞台で約320年前の、屋外の能舞台としては国内最大のもの。書院の縁側から見る奥の松の絵が印象的。

なんと、この能舞台には音響効果を考えて、舞台の下に、瓶(かめ)が置かれている。

ここで毎年、親鸞聖人の降誕会(5月21日)には、祝賀能が舞われている。

虎之間

最初の間が「虎之間」。当時、日本では誰も見た者はなかった虎を想像して描いた障壁画がある。そのためか、その姿は猫のようにも、人のようにも…。



唐門(国宝)

桃山時代の伏見城の遺構といわれ、黒漆塗に彩色彫刻を施した豪華な四脚門で、これを眺めていると、日の暮れるのを忘れるということから、日暮門とも呼ばれている。

仏青よりお祝いの言葉

今回、仏青の代表として、
舟川智也中央委員長と、
平本ひとえ・中島宏一郎中央副委員長の3名が
披露宴にお招きにあずかりました。



この度のご婚儀、本当におめでとございます。
仏教青年連盟をご指導いただいております総裁さまが、流豆美さまというご伴侶をお迎えになられたことは、私も仏教青年連盟一同にとりまして、まことに心強く、よろこばしいことであり、このたびのご慶事、心よりお祝い申しあげております。

お二人は、ともに龍谷大学大学院に学び、真宗学を研鑽されている中で知り合われたと聞いております。み教えを尊ぶ歩みの中でお二人が出遇っていったということが、とてもすばらしいことだと感じました。

この「新たな始まり」を契機に、仏教青年連盟として、お二人のようにみ教えを尊び、お念仏をよろこぶ人を一人でも多く育てる活動を、さらに力強く展開していけるよう、思いを新たにいたしております。

どうか、今後とも私たちを見守り、お導きくださいますよう、よろしくお願いたします。

仏教青年連盟 中央委員長(当時) 舟川 智也

「あなたも、仏前で結婚式を挙げてみませんか？」

仏前結婚式について詳しく知りたい方は、「まこと」135号(2006年3月発行)の特集「Buddhist Weddingのススメ」をぜひお読みください。

その他、ご不明な点は仏教青年連盟事務局へお気軽にお問い合わせください。

お問合せ

浄土真宗本願寺派 組織教化部内

仏教青年連盟事務局

075-371-5181(代)

<http://www2.hongwanji.or.jp/soshiki/yba/>



仏前結婚式の紹介ビデオも無料で貸し出ししています。

編集後記

取材にあたって



この度の取材は、広報委員会を代表いたしまして、九州からはるばる新幹線でやって来たさすらいのカメラマン中島信。広島から自転車持って駆けつけたカメラマン中村道明じゃけん。本願寺まで小走り3分の歌姫ライター三浦明利。そんなオチャメな3人があたりました。



厳かな式とは対照的に、たくさんの報道陣が集まる一角だけは物凄い熱気でした。取材の後は、みんな笑顔でホッとココア☆



まこと 第136号予告

ここで、「まこと」を製作している広報委員会からのお知らせ。

「まこと」第136号は4月からの新しいメンバーによって製作されます。「2006全国真宗青年の集い宮崎大会」のテーマ「ありがとう～今、大切なこと～」に添った内容も企画。お楽しみに！

…そのみならず、これから「まこと」はさらに変わります。ビックリしますよ！
変わりすぎて「まこと」だと気づかないかも…！？

発行：〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル
浄土真宗本願寺派宗務所内
浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟広報委員会

電話：075(371)5181(代)
印刷：創文堂印刷株式会社

HP ADDRESS <http://www2.hongwanji.or.jp/soshiki/yba/>